

工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。



1月2週目

旧東慶寺仏殿に引き続き、月華殿も大規模保存修理工事が始まっています。内部では耐震補強工事のための解体が進められる一方、外部には屋根葺替等の工事が安全に行えるように足場を作り周囲を囲む「素屋根」が建てられ、建物の外観は見えなくなりました。足場からは屋根面に安全に近づいて観察できるようになり、傷みの著しさが尚のことよく分かるようになりました。これから古い屋根を解体して、新しい屋根に葺き替えていきます。



鉄のパイプを組み合わせて作り上げる「素屋根」は、仮設の建物ですが頑丈さは折り紙付き。工事中の建物を風雨から守り、適切な高さの足場によって屋根葺替工事が円滑に行えるようサポートします。

檜皮葺（上層）は立木の檜から剥がした檜の皮を、柿葺（下層）は割って作った木の薄い板を、それぞれ少しずつずらして屋根面を作り、竹の釘で打ち止めて葺いた屋根です。植物性材料のため日光や風雨で劣化し、また獣による害を受けることもあります。作業しやすい位置に据えられた足場からの現在の屋根を見ると、檜皮葺屋根も柿葺屋根も傷みが著しいことがよくわかります。



檜皮葺屋根の特に傷みが著しい箇所。日光・風雨で劣化し弱ったところを狙って、獣が穴を開けてしまいました。銅板で覆う応急処置を行っています。

檜皮葺屋根

柿葺屋根

棚足場

柿葺屋根の特に傷みが著しい箇所。日光で劣化し、風雨で摩耗しています。穴が開いてしまった箇所は銅板で覆う応急処置を施していました。